

## エネルギーキャリア推進委員会（第1回）議事要旨

1. 日 時 平成26年6月25日（水）10:00～11:30

2. 場 所 中央合同庁舎4号館4階共用第2特別会議室

3. 出席者：（敬称略）

（議長）村木 茂 プログラムディレクター

秋鹿 研一 放送大学 客員教授  
相澤 益男 (独)科学技術振興機構 顧問  
江口 浩一 京都大学 工学研究科 物質エネルギー化学専攻 教授  
笠木 伸英 (独)科学技術振興機構 研究開発戦略センター  
副センター長・上席フェロー  
河合 大洋 トヨタ自動車株式会社 技術統括部 担当部長（代理：黒山 嘉宣）  
後藤 新一 (独)産業技術総合研究所 招聘研究員  
斎藤 健一郎 JX日鉱日石エネルギー株式会社 中央技術研究所 上席フェロー  
塩沢 文朗 住友化学株式会社 理事 気候変動対応推進室 部長

白石 暢彦 消防庁 特殊災害室 室長（代理：中越 康友）  
松尾 浩道 文部科学省 研究開発局 環境エネルギー課 課長  
原 伸幸 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部  
新エネルギー対策課 燃料電池推進室 課長補佐  
田中 伸彦 経済産業省 産業技術環境局 研究開発課 企画官  
堀田 照久 経済産業省 産業技術環境局 研究開発課 調査官  
油科 壮一 経済産業省 産業技術環境局 研究開発課 戦略官  
河合 宏明 特許庁 総務部 企画調査課 知的財産活用企画調整官  
大谷 雅実 国土交通省 海事局 海洋・環境政策課長  
大平 英二 (独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 新エネルギー部  
燃料電池・水素グループ 主任研究員  
（代理：橋本 秀昭）

（管理法人）

古賀 明嗣 (独)科学技術振興機構 環境エネルギー研究開発推進部 部長  
篠崎 資志 (独)科学技術振興機構 科学技術プログラム推進部 参事役

（事務局）

山岸 秀之 内閣府 科学技術・イノベーション担当  
岩崎 一弘 内閣府 科学技術・イノベーション担当  
池見 明紀 内閣府 科学技術・イノベーション担当

#### 4. 議題

1. SIPの概要及び各種規程について
2. 推進委員会の設置及び運営要領について
3. 研究開発計画について
4. 個別研究開発課題の公募および選考について
5. エネルギーキャリア関連特許動向調査（特許庁）
6. その他連絡事項

#### 5. 配付資料

- 資料1-1 SIPの概要
- 資料1-2 科学技術イノベーション創造推進費の基本方針
- 資料1-3 SIPの実施方針
- 資料1-4 SIPの運用指針
- 資料2-1 SIP推進委員会の設置について
- 資料2-2 SIPエネルギーキャリア推進委員会運営要領
- 資料3-1 「エネルギーキャリア」研究開発計画
- 資料4-1 個別研究開発テーマの研究責任者の公募および選考について
- 資料5-1 エネルギーキャリア関連特許動向調査

#### 6. 議事要旨

1. SIPの概要及び各種規程について
  - 資料1-1, 2, 3, 4に基づき、総合科学技術・イノベーション会議等での決定事項を事務局より説明
  - 以下の通り質疑・コメントがあった。
    - 知的財産委員会はSIPの課題ごとに設けるのか。  
→その通りである。
2. 推進委員会の設置及び運営要領について
  - 資料2-1, 2に基づき、推進委員会の設置、運営要領を事務局より説明
  - 以下の通り質疑・コメントがあった。
    - PDの任期は3年とあるが、委員の任期は。  
→1年、再任は妨げないということになっている。
3. 研究開発計画について
  - 資料3-1について、事務局より説明
  - 村木PDより以下の通り補足があった。
    - 現在水素導入シナリオを詰めており、それに基づき、研究テーマの優先度、重みづけなどを考えていきたい。また、東京オリンピック・パラリンピックでのデモも重要と考えており、ここ数か月ぐらいでマスタープランを詰める必要がある。これらの内容が詰まった段階でこの推進委員でも議論してもらい、今後の研究計画に反映させていきたい。
    - プログラム間の連携が重要、特にJST、NEDOとの連携は重要で、SIPとしてこの連携に積極的に取り組み、国全体としてこの分野で効率的な取り組みができ、産業の発展に寄与できるようにしていきたい。
  - 以下の通り質疑・コメントがあった
    - よくまとめられていると思う。最も重要なことは、P5の図表2-1にある全体的な取り組みとして、各省庁が独自に実施するテーマとどう関係づけて取り組むかであるが、あま

り明確ではないのではないか。

→この計画は JST で進めるべき内容を中心に描いているが、相澤先生のご指摘の点は重要と思っており、関係省庁と話をしており、もう少しまとまった段階でこの場でも相談したいと思っている。

- 全体としてきちんと整理されている。P5 の図表にもあるが将来のエネルギーを考えた場合、いろいろな変化もあり、国内外の需給関係も大きく変わってくることもある。それも踏まえたダイナミックなシナリオ書きが重要。今回の計画書では内容が盛り沢山になっている割に、予算が潤沢でない状況なので、出口を目指して産業界をいかにして本気にさせるかが鍵で、シナリオと研究テーマをリンクさせて取り組むことが重要と考える。また、村木 PD にはエネ庁のエネルギー政策立案過程とも十分連携していただきたい。  
→今回のテーマは盛りだくさんとなっている。これからシナリオ検討を進め、重点課題を整理していきたい。シナリオは、エネ庁・水素燃料電池協議会の作るもの、また経産省の委託で産総研が作成するものあり、現状から見通した各要素の積み上げで作るもの、目標からバックキャストするもの等の性格の違いはあるものの、これらと大きな祖語がないようにしていきたい。  
→ エネ庁のロードマップは、少し遅れることになったが昨日 HP に公開した。今後も産学官でしっかり連携して水素導入に取り組んでいきたい。
- 経産省のシナリオ策定 WG に委員として協力しているが、この推進委員会でもその策定の進捗も紹介してもらう必要がある。また、JST では CREST、さきがけでのエネキャリアの基礎的な課題に取り組んでおり、この委員会でも内容をよく認識してもらい、またサポートもして頂きたい。  
→JST と NEDO のプログラムを俯瞰しながら、テーマ内容も整理をしたいと思っている。内閣府が窓口となり、9 月ごろから定期的に JST、NEDO テーマについての議論を進めることになっており、CREST、さきがけのテーマも含めて JST には情報提供をいただきたい。

#### 4. 個別研究開発課題の公募および選考について

- 資料 4-1 について、科学技術振興機構より説明

#### 5. エネルギーキャリア関連特許動向調査

- 資料 5-1 について、特許庁より説明

#### 6. その他連絡事項

- 次回推進委員会は、公募の選考終了後の 9 月に予定。別途、日程調整予定。

以上